

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100170		
法人名	有限会社 福寿草		
事業所名	グループホーム 福寿草	ユニット名	1号館
所在地	宮崎県宮崎市大字広原312番地1		
自己評価作成日	平成28年9月6日	評価結果市町村受理日	平成28年11月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokansaku.jp/45/index_nhp?action=kouhou_detail_2015_022_kani=trus&liyosvoCd=4590100170-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成28年9月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

宮崎市住吉地区に所在し、周囲を田園に囲まれ又、ビニールハウスの連なる一角に位置しております。昔ながらの田園地帯で、田植えの時期には蛙が合唱し、収穫時には赤とんぼの姿が見られます。その中を散歩しながら、昔の話に花が咲き、自然と利用者様の顔には、笑みがこぼれ遠い昔を思い出しておられます。事業所では、利用者様に一番近い職員が、利用者様を尊重し、尊厳ある生活を継続出来る様、職員全員でケア理念を作りました。ケア理念に沿ったケアの実践に日々取り組んでおります。地域密着サービス事業所の役割として、認知症サポーター養成講座の開催をキャラメイトとして、地域活動に参加し、正しい認知症について発信をおこない又、認知症についての困りごと等の相談にも快く、助言・アドバイスをおこなっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、幹線道路から数メートルしか離れていないが、田園や施設園芸が多く、住宅も混在した閑静な場所である。ホームもビニールハウスを持ち、葡萄などの果樹を収穫している。
 ・敷地内の地域密着型の3事業所は、調理や入浴、夜勤時の緊急時対応を補完しあい、合理的に運営している。
 ・職員は社会問題でもある認知症に対して、認知症サポーター養成や福祉系学生の実習指導、認知症相談者に対応するなど、専門性を生かして地域に貢献するよう努めている。ホームでは最後まで住み慣れた所で過ごしたいと利用者や家族の思いを受けて、ターミナルケアや看取りを行っている。
 ・子育て中の職員が、延長保育の送迎や帰宅までの過ごし方に苦慮する時には、職員が働き続けられる環境づくりに積極的に取り組み、柔軟に対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が願っている事こと、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係が出来ている。 (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時、出勤者で理念を唱和し確認し合っている。ホール内に理念等を掲示している。		「その人らしい老後を送るホッとできる家庭的なホームづくり」を目標に、4年前に全職員で理念を見直し、ケアを中心とした4項目を掲げている。理念は掲示し、また、毎朝の唱和により職員で共有し、日々の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	「福寿草」だよりによって、行事等の報告を行い年に1回「納涼祭」にて交流の場を設けている。		ホームは自治会に加入し、総会等に運営者が参加している。「福寿草だより」を地区16班に回覧し、納涼祭や防災訓練などの案内と参加を呼び掛けたり、地域の催事にホーム等の施設利用を提案するなど、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座に参加してもらい地域の人々に理解して貰うように努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度実施している。会議の前に家族会を開き意見、要望を運営推進会議で発表して頂き検討しサービスの向上につなげている。		家族会を毎回推進会議前に開催し、意見や要望を持って推進会議に参加している。会議は小規模多機能型事業所と合同で定期的で開催している。地域との交流、防災訓練、感染症対策など、ホームの課題を協議し、運営に生かすようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険サービスの疑問相談事がある時は、介護保険課まで出向き相談している。		市の担当者とは、ホームに関する規則や運営上の相談・解決に向けて、双方向的な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会で身体拘束についての知識を高めている。		管理者及び職員は、身体拘束のないケアに取り組んでいる。自傷行為がある利用者には、家族と相談の上、職員が手作りした保護用具を装着し、拘束感を軽減する工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の尊厳を持って対応を行なえるように気をつけ、虐待防止を心がけている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修では、必ず全職員が理解に取り組んでいる。権利擁護とは何かを管理者より学び勉強会に於いてどのように活用するか話し合っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、介護支援専門員より十分な説明を行なっている。家族の方には十分理解をして頂き疑問等があれば納得がいくまで説明する。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来られたときは、近況報告を行い、意見や要望があったときは、各棟のケアマネを通して施設長へ報告を行なっている。	利用者を担当する職員は、日々の会話や食事、入浴を思いを把握する機会と捉えている。「センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)」の一部を活用し、家族の協力を得て、会話では得られなかった情報や要望を運営に反映するよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送り職員からの意見を出し合い改善できるところから改善している。	毎月のミーティングや勉強会で、利用者支援のケアの在り方、子育て中の職員が働きやすい職場環境の配慮など、出された意見や要望を運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は就業環境を整え、働きやすい職場作りに努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修会や勉強会を実施し参加することで質の向上を図っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会等の勉強会に参加し、経験をつんでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様に積極的に声を掛けて話を傾聴しながらコミュニケーションを築くことに取り組んだ。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等と面接を行い、話の中で不安なことや困っていることに傾聴しアドバイスをして関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人が望んでいる事を見極め支援できるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護度が高くなり、一方的な介護になることが多い。行事等には一緒に楽しむように努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時には、利用者様の状況を伝えて情報を共有して、家族間とのコミュニケーションを図っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が来られたらゆっくり話せる場を設けている。	電話、外出、面会など、個々の利用者に必要な支援は家族の協力が大きい。家族へ年賀状を出す支援をしていたが、困難な利用者が多くなり、手作りしやすいクリスマスリースに替え、家族との関係づくりを支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護度の高い利用者様が多く職員が間に入って、橋渡しをすることで利用者様同士のコミュニケーションを図れている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や施設へ移ったときは、情報提供に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者担当者が思いや希望意向を聞きだし職員一同で情報の共有を図りミーティングにて検討している。	利用者担当の職員が、主体的に思いや意向、暮らし方の希望等を細かに聞き取り、家族や関係者からの情報も収集して把握に努めている。ミーティングで検討し、職員間の情報の共有を図り、利用者の希望に沿えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人に生活歴を聞き情報を収集している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送りにて現状を把握しスタッフ間で共有する。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回ミーティング開催時に現状把握と、課題を抽出し本人にとってよりよいケアのあり方を検討している。	介護計画は利用者担当の職員と計画作成担当者が主になり、本人や家族の意向の実現と継続のために、毎月のモニタリングと3か月ごとに短期目標の評価と見直しを行い、チームの合意と共有を確認した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った個別日誌に記録し、情報を共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接する小規模多機能の利用者様と交流を図り行事に取り組んでいる。			

宮崎県宮崎市 グループホーム福寿草(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域参加できる利用者様には選挙投票・事務手続きに同行し支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談の上、主治医を決め24時間訪問看護ステーションとの医療の確立を図り、医療連携に努めている。	入居前からの主治医の継続や往診する医師など、本人や家族の希望に沿うようにしている。医療連携対応や受診時の家族の役割、協力医や訪問看護ステーション、救急時の対応を説明し、適切な医療の確保を支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと24時間の連携体制を整え医療連携を図っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、細かな情報を提供し定期的に見舞いに伺い退院に向けて支援している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医より、終末期の告知を受けるまで、家族・医師・訪問看護ステーション・介護職員で話し合い連携できる支援体制を確立している。	ターミナルケアは、本人や家族の希望を尊重し、職員はガイドラインやマニュアルに基づき対応している。夜勤中はオンコールにより管理者が出勤する体制をとっている。職員は、看取りにより最後まで寄り添ったことを、更なる支援に生かしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会で学び、消防署が主催している救命救急講習に参加している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行なっている。夏の防災訓練では、地域消防団、近隣住民、消防署の協力を得て防災訓練を行なっている。	消防法に基づき、年2回の火災防災訓練は消防署や消防団の指導にて実施し、地域住民も参加しているが、見学程度で協力体制は構築されていない。非常食はカセットコンロでの炊飯を検討し、鍋類を購入している。約2km範囲内に河川があるが、水害等自然災害対策は具体化していない。	防火対策が最優先であるが、火災発生時の地域住民との具体的な協力内容や分担事項を示して、協力の可否を確認し、また、自然災害時の避難時期や避難先を具体化する等の課題や検討中の事項に対策を講じることを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の利用者様を尊重して、声かけを行なっているが、つつい声が大きくなる等の場面が見られる時、他の職員から注意を受けている。	職員は利用者一人ひとりの尊厳とプライバシーの保護について理解しており、指導が必要になる場面がみられた時は、気付いた職員が指導し合う環境を整えている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べ物に関しては、自己決定することができるが衣類等に関しては一部の方のみ自己決定して頂いている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護度が高くなっているため、一人ひとりに合ったペースで希望に沿った支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介護度が高くなっている為、出来る方は、自己にて行なっていたが、自己決定が困難な方は職員により支援、コーディネートをしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の現状に応じてお膳拭き、テーブル拭きを行って貰っている。食事については、利用者様が満足できるよう、ふりかけ、そうめん、玄米等取り入れている。	各ホームで炊飯し、主菜(普通食)は併設施設で一括調理している。ホームでは利用者の好みや嚥下機能に応じて、玄米やコンニャクの混合飯やミキサー及びトロミ食にし、全量摂取できるように工夫している。職員も同じものを食べ、毎食の感想を提出し、献立や調理に反映している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事の摂取量を把握し、足りない方には支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの際には、口腔内を確認し誤嚥予防に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、個別の把握を行い、個別変化が見られる時(失禁、自尿ない等)は集中的に観察を行い、ケアの検討をしている。	排泄チェック表により、個別の把握を行い、個別変化が見られる時(失禁、自尿ない等)は集中的に観察を行い、ケアの検討をしている。	排せつの自立習慣を継続するよう、チェック表を活用しパターンやサインに注意し、可能な限り、昼夜共にトイレでの排せつを支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問看護より便秘体操の指導を受け実施している。1日1回フルーツヨーグルトを献立に取り入れている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在入浴に対しての意向の確認できる利用者様1~3人の利用者様は意向に沿って行なっているが、その他の方はスケジュールにより行なっている。	一人ひとりの状況や希望に沿い、見守りや部分又は全身介助を行い、浴槽に浸れるよう支援している。重症化に対応する目的で、併設の事業所に特殊浴槽を設置しているので、特殊浴槽を使い、可能な限り入浴を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内環境を整え、安眠できるように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は錠のかかる保管所で管理し、変更等があったときは個別申し送りノートに記入し2重、3重でチェック体制を行なっている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出はなかなか出来る方が少ないためカレンダー作成や新聞折、貼り絵、テーブル拭き、お盆拭きなど役割をもっていただいている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	要介護度、認知度が高くなり、戸外への外出は散歩程度行事にて、ドライブ外出が年1~2回程度の支援になっている。	気候が良い時には、散歩や車椅子での外出に努めている。そのほか、併設の送迎車を利用して、季節行事に花見を取り入れている。個別には、車を使って買い物やなじみの美容院に出掛けるなど、家族や職員が支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方はほぼいない。一人の利用者様に関してはお小遣いを渡し、金銭感覚を忘れないように支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スタッフが介して電話や手紙を書いて支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の温度・湿度調整を小まめに調節している。特に、匂いには施設全体で防臭対策に取り組んでいる。		後に開設した2号館は、1号館の不自由さを解消した設計になっている。共通的な配慮として、温度や湿度、臭気や細菌対策に常時空気清浄器を作動している。花細工の壁絵やカレンダーを貼り替え、年末には鳥居を立て初詣を行うなど、季節の移ろいを感じてもらおうよう工夫している。トイレは出入りやプライバシーに配慮した1~2分割の引戸仕様になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳文化の取り入れも行なっている。ホールでは一人ひとりゆっくり出来るように配慮し、自由にゆっくりと出来るように過ごして頂いている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の生活習慣(仏壇、テレビ、ラジオ、扇風機、たんす等)入所以前の生活状態を継続している			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行を行なう動線には物を置かず手すり等も設置し安全を確保している			